アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ

No. 96／ 2015 年 1 月

あけましておめでとうございます．1月早々，AP研執行部はフルスロットルでがんばっております．本年もどうぞよろしくお願いします．それでは「アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ」 第96号をお届けします．

【1】2015年度アンテナ・伝播研究専門委員会執行部および各種委員会体制

2014年12月11日(木)に機械振興会館で開催されました2014年度下期専門委員会において，2015年5月のAP研新体制が以下のように承認されました．

◆ 執行部

委員長(新任)	長 敬三（千葉工業大学）	任期:2015年5月～2017年5月
副委員長(新任)	岩井 誠人（同志社大学）	任期:2015年5月～2017年5月
幹事(留任)	中野 雅之（KDDI 研究所）	任期:2014年5月～2016年5月
幹事(新任)	西森 健太郎（新潟大学）	任期:2015年5月～2017年5月
幹事補佐(留任)	木村 雄一（埼玉大学）	任期:2014年5月～2016年5月

◆ 各種委員会委員長

WS 常設委員会委員長（留任):	高橋 応明(千葉大学)
論文委員会委員長（留任):	広川 二郎(東京工業大学)
アンテナの歴史委員会委員長(留任):	小西 善彦(広島工業大学)
表彰委員会委員長（新任):	田中 正人(情報通信研究機構)

【2】2015年度第一種研開催計画

同じく専門委員会にて，2015年度の第一種研究会の開催計画が承認されました．計画の詳細はAP研ホームページでご確認ください．ご投稿，ご参加をお願いいたします．第一種研究会はIEEE AP-Sの各地域チャプターが共催となり実施されます．なお7月の稚内開催は早めの宿泊確保をお勧めします．

【3】12月AP研開催の報告

12月のAP研は11日に機械振興会館にて，IEEE AP-S Tokyo Chapterと共催で行われました．AP研恒例の若手奨励賞／学生奨励賞の表彰式が行われ，下記の方が受賞されました(敬称略)．

◆若手奨励賞:堅岡 良知（新潟大)，村田 健太郎（防衛大）

◆学生奨励賞:大橋 絵理子（横浜国大)，杉本 義喜（福井大)，今野 恵太（岩手大）

同時に，下半期の専門委員会，顧問会，懇親会も同じ日に開催されました．懇親会では，大勢の方がご出席され，ご長寿のお祝い，表彰を受けられた方などのお祝いがあり，和やかな雰囲気のもと，盛大に行われました．

左から新井AP研委員長，村田様，堅岡様，菊間表彰委員長

左から新井AP研委員長，杉本様，大橋様今野様，菊間表彰委員長

【4】2014年12月AMT研開催報告

AP研の第2種研究会である無線端末・アンテナシステム測定技術研究会(AMT研)が12月19日に種子島宇宙センター　宇宙科学技術館オーディトリウムにてIEEE AP-S Fukuoka Chapter，産総研電磁界クラブの協賛で開催されました．測定に関して密度の濃い活発な議論が進められました．前日18日にはチュートリアルワークショップとして，宇宙航空研究開発機構（JAXA）の砂見幸之氏により「ロケット用無線通信システム通信エラー原因の解明と対策技術の研究開発」というタイトルで，H-ⅡABロケットのロックオフ通信エラーの現象解明と対策について，大変貴重なお話を頂きました．また通常は立ち入りできない宇宙センター施設の特別見学も開かれました．2015年度のAMT研開催も御期待下さい．

JAXA　砂見幸之氏

管制用アンテナ　宇宙科学技術館（講演会場）

【5】2月AP研開催の御案内

2015年2月のAP研は，18～20日に兵庫県の尼崎市中小企業センターにて開催します．好評だった昨年に引き続き，企業特集オーガナイズドセッションを18の講演数で企画しております．企業の方から日ごろ取り組んでいらっしゃる御研究を，発表していただきますますので，学生の方も含め，是非，聴講参加ください．

【6】4月AP研お申込みの御案内

2015年4月のAP研は，23，24日に沖縄県石垣市（会場調整中）にてIEEE AP-S Fukuoka Chapterと共催で行われます．きっと、気候も素晴らしいでしょう．投稿申込締め切りは2月10日になっております．是非ご投稿ください．

【7】副委員長の戯言

この冬は寒い日が続いています．本稿を執筆している 12 月には爆弾低気圧の発生により，日本各地で大雪が降りました．雪が降る地域にお住いの方は，春が来るのが待ち遠しいことと思います．昨年 3 月に発表された長期予報では，この冬の「寒い冬」が予想されていました．気象予報技術の進化に改めて感心します．アンテナ・伝搬技術も気象予報に大きく貢献しています．最近の気象レーダ用のフェーズドアレーアンテナを用いると，ゲリラ豪雨や竜巻の立体構造を 10 秒で観測できるそうです．少し前になりますが 2013 年の NICT のオープンハウスで行われた気象レーダに関する講演の映像が YouTube にて公開されています．20 素子で 20 度のファンビームを形成して信号を送信し，128 素子の DBF 構成で 1 度ビームを形成してデータを取得するとのこと．3 次元の雲の分布を観測した結果の動画は圧巻でした．アンテナの性能も大事ですが，結果を視覚的にどのように見せるか，も重要だなぁ，と思いながら拝見しました．

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長　　長　敬三（千葉工大）
E-mail：ap_ac-chair@mail.ieice.org（AP研執行部のメールアドレス）
AP-NET：AP研の最新情報を毎月メールにてお届けします!!　登録はAP研HPにて
AP研HP：http://www.ieice.org/cs/ap/jpn/
ISAP Archives：　http://ap-s.ei.tuat.ac.jp/isapx/